

令和8年6月4日

令和8年度静岡市協働パイロット事業審査委員会 審査結果講評

令和8年度静岡市協働パイロット事業審査委員会
委員長 川村 美智

令和8年度の静岡市協働パイロット事業では、5件の協働事業が提案されました。各企画提案について、新規事業一次審査（書類審査）を実施し、これを通過した4件の企画提案を対象に新規事業二次審査（面接審査）を実施しました。あわせて、令和7年度に採択された事業の継続提案について、書類審査を実施しました。

「協働事業」とは、具体的な個別の課題について、それぞれ自らの果たすべき役割及び責務を自覚して、自主性を相互に尊重しながら、協力し合い、又は補完し合って行うものをいいます。

協働パイロット事業においても、本市全体の社会的課題について、本市と実施団体が協働して取り組んでいく提案を期待するものです。

新規事業の審査においては、次の6つの評価点に基づいて評価・採点を行いました。

- (1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか
- (2) 協働にふさわしい事業か
- (3) NPOの先駆性・創造性を活かした事業か
- (4) 実行性が十分に感じられるか
- (5) 予算の見積りは適正か
- (6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か

協働パイロット事業は試行的な協働事業ですが、これを契機に本格的な協働事業への発展や、継続的な事業実施へのステップアップを目指すものであるため、「(1) 市民ニーズや社会的課題を適切に把握しているか」、「(2) 協働にふさわしい事業か」及び「(6) 本格実施（継続実施）への発展性が見込める事業か」については、特に重点を置いて評価をしました。

新規事業二次審査の結果、以下の2件の企画提案を令和8年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定しました。

- 1 外国にルーツのある就学前幼児とその保護者のための日本語教室
えがお
- 2 災害時における要配慮者の適切な避難生活環境確保と災害関連死防止対策
特定非営利活動法人 静岡市障害者協会

継続事業に関しては、次の4つの視点に基づいて評価を行いました。

- (1) 初年度事業について、社会的課題の解決に対して一定の成果が認められるか。
- (2) 初年度事業の成果を踏まえた事業提案となっているか。
- (3) 本格実施への発展性が見込める事業か。
- (4) 予算の見積りは適正か。

継続事業審査の結果、令和8年度静岡市協働パイロット事業の候補として選定した事業はありませんでした。

【審査委員講評】

《新規事業》

提案事業名：外国にルーツのある就学前幼児とその保護者のための日本語教室

提案団体名：えがお

審査結果：選定する

外国にルーツのある就学前幼児とその保護者を対象に、日本語学習支援を通じて、安心して学校生活を迎えられる環境づくりを行う事業を提案いただきました。

本事業は、提案団体がこれまで実施してきた日本語教室の活動実績を踏まえ、多文化共生に関する課題を適切に把握したうえで企画されている点や、就学前から保護者と子どもを一体的に支援することで、学校生活への円滑な移行を目指している点が評価され、採択事業候補として選定されました。また、団体の結束力や継続的な活動実績から、事業の実行性についても高く評価されました。

加えて、外国にルーツをもつ家庭が学校からの配布物や就学手続き等の理解に苦慮している実態もあることから、現場で見えてきた課題や支援の事例を整理し、行政や教育現場との情報共有や改善提案につなげていくことは、本事業の大きな意義の一つであると考えられます。本事業を通じて、課題解決に向けた効果的な支援手法の検証や仕組みづくりにつながっていくことを期待します。

今後の事業展開にあたっては、日本人親子との交流機会の創出や、既存の日本語支援団体とのネットワーク形成など、より効果的な事業となる体制づくりについても検討いただきたいと思えます。本事業が地域における多文化共生の推進と、子どもたちが安心して学び育つ環境づくりにつながることを期待します。

提案事業名：災害時における要配慮者の適切な避難生活環境確保と災害関連死防止対策

提案団体名：特定非営利活動法人 静岡市障害者協会

審査結果：選定する

本事業は、災害発生時に福祉避難所の開設まで一定の時間を要することを踏まえ、要配慮者が一般避難所の環境下においても安心して過ごすことのできる体制づくりを目指すものであり、社会的課題の重要性や事業の必要性が高く評価され、採択事業候補として選定されました。

また、提案団体の知見に基づいて、避難所運営や要配慮者への支援体制の現状などについて適切な課題認識を有している点も評価されました。特に、地域住民、自主防災組織、行政職員等が連携しながら避難所運営を考える機会を創出しようとする提案は、今後の地

域防災力の向上につながる取組だと考えられます。

一方で、本事業を進めるためには関係部署や地域との調整が不可欠であり、地域や関係機関の負担にも配慮しながら事業を進めていく必要があります。事業の実施手法や横展開の方法については地域の負担が少なくなるよう、さらなる工夫や検討をしていただくとともに、モデル地区での取組を通じて課題や成功事例を整理し、他地域への展開につながる実践的な成果としてまとめていただくことを期待します。

本事業が、要配慮者への理解促進と地域における支え合いの仕組みづくりにつながり、災害時に誰もが安心して避難生活を送ることができる地域づくりに寄与することを期待します。

提案事業名：しずおかゲームクリエイター EXPOプロジェクト

提案団体名：ShizuokaGame-Based Learning Lab

審査結果：選定しない

課題テーマ「ゲーミフィケーションを活用した子どもたちの学びの機会づくり」に対する提案をいただきました。

本事業は、ゲームを活用して子どもたちが静岡の歴史や地域資源について調べ、建築・発表を行うことでICTや探究学習の機会を提供するというものであり、楽しみながら学ぶことができる手法や着眼点については評価されました。

一方で、事業内容については2日間のワークショップと発表会だけで目指す成果が十分に得られるかという実効性の面や、デジタル空間の作業だけでなく、ゲームの素材となる地域の自然、地形、歴史的建造物などを実際に目で見て触れるような体験を組み込むべきではないかという意見がありました。

また、単に「ICT教育の機会不足」を課題とするだけでなく、例えば経済的な理由等から、そうした機会を望んでも得られない子どもたちに寄り添い、機会格差を解消していく等、真の社会的課題へ踏み込んだアプローチや検討が今一歩足りず、現段階では市との協働による効果や必要性が見だしにくいという指摘もありました。

中学校部活動の地域移行など、今後の教育環境の変化を踏まえ、地域や学校との連携のあり方を含めて団体のノウハウと地域の資源を結びつけ、子どもたちのニーズに寄り添った提案へ磨き上げていただくことを期待します。

提案事業名：誰一人取り残されない地域への一歩に

庵原ユニバーサルスポーツモデル創出事業

提案団体名：特定非営利活動法人 結楽

審査結果：選定しない

課題テーマ「静岡市清水区庵原地区『ユニバーサルスポーツ聖地化』のブランド化に向けた取組」に対する提案をいただきました。

障害の有無や年齢にかかわらず、誰もが日常の中で自然に支え合える地域づくりを目指し、小学校の総合学習と連携しながら障害当事者と子どもたちが一緒に新しいユニバーサルスポーツを開発・体験する事業の提案をいただきました。

単発の福祉教育で終わらず、ユニバーサルスポーツと一緒に開発する過程そのものに価値を置き、地域の多様な主体との関係性を構築していくという着眼点や理念については、高く評価されました。

一方で、どのようなユニバーサルスポーツを創出していくのか、その具体的な手法やプロセスが十分に示されておらず、事業の実効性や成果がイメージしにくいとの意見がありました。加えて、事業費の積算根拠や予算規模の妥当性についても検討の余地があるとの指摘もありました。

今回は選定には至りませんでした。提案の方向性自体は非常に意義深いものであります。また、本事業は市の提示した「庵原地区」という課題テーマに沿った内容ではありますが、まずは団体がこれまでかかわりのある地域や学校において実績を積み重ねるとともに、事業の成果や必要な経費等を整理した上で、より具体性のある事業として発展させていただくことを期待します。

提案事業名：男性特有の生きづらさの解消 男性の生きづらさを解消する地域共創プロジェクト ～男性が輝く体験型コミュニティ拠点の創出 おまちのキッチン LAB &アートコミュニティー～

提案団体名：ライフデザインインフィニティ

審査結果：選定しない

課題テーマ「男性特有の生きづらさの解消」に対する提案をいただきました。

男性が抱える孤立や生きづらさの解消を目指し、料理やアートなどを通じた交流の場づくりを行う事業として提案いただきました。

本事業は、社会とのつながりを持ちにくい男性への支援という課題に着目し、新たなコミュニティ形成の機会を創出しようとする提案である点が評価されました。

一方で、ターゲット層へのアプローチ方法や事業の実効性については、懸念等が指摘されました。社会とのつながりを持ちにくい状況にある男性に対し、「料理」や「アート」という手法が有効なのか、さらに「街頭アンケート」による実態調査についても支援を必要とする層の実態を十分に把握できる手法となっているのかといった疑問が残り、アプロ

一チの仕方に工夫や再検討が必要ではないかという意見がありました。

今回は選定には至りませんでした。本市が抱える重要課題に対して市民活動団体ならではの視点からアプローチを試みた意欲的な提案です。今後は、対象者や課題の実態把握を進めるとともに、把握した課題の解決に向け、支援を必要とする方々への効果的なアプローチ方法や専門的な支援体制について検討を深め、事業化へ向けて発展されることを期待します。

提案事業名：きみの居場所プロジェクト

提案団体名：静岡の未来を拓く会

審査結果：選定しない

令和7年度からの継続事業として、学校生活に不安を抱える子どもたちが、高校生との交流を通じて安心できる居場所や学びの機会を得られる環境づくりを目指す事業として提案いただきました。

初年度においては、高校生が主体となって企画・運営に参画し、放課後子ども教室等での交流活動を実施するなど、子どもたちの新たな出会いや居場所の創出につながった点が評価されました。また、事業に携わる高校生自身の成長や主体性の醸成にも寄与する取組として期待できるとの意見がありました。

一方で、提案内容については、当初掲げていた「学校生活に不安を抱える子どもたちへの支援」という課題との間にギャップが見られ、方向性がやや見えにくくなっているとの意見がありました。新たに提案いただいた取組においても当初の課題との連動性が見えにくく、初年度事業からの発展性や協働パイロット事業として何を検証し、どのような課題解決につなげていくのか道筋が分かりにくいとの指摘もありました。

今後は、初年度で得られた成果や課題を整理するとともに、協働によって解決を目指す社会的課題を改めて明確にし、事業内容を絞り込みながら発展させていくことを期待します。

提案事業名：「対話の可視化」による日常の安心醸成と、社会参画への動線構築事業
～アーカイブとDXでつなぐ「一人の時間」と「社会との接点」

提案団体名：つながいりあいず

審査結果：選定しない

令和7年度からの継続事業として、社会とのつながりを持ちにくい方々が安心して交流できる場づくりを通じて、孤立の防止や社会参加の促進を目指す事業として提案いただき

ました。

初年度事業では、生きづらさや不安を抱える人々が安心して語り合える場を提供し、参加者同士のつながりづくりという点では一定の成果が見られたものの、関わった人数は限定的であり、課題解決への貢献も局地的なものにとどまったとの評価がありました。

継続事業の内容については、市が重視している支援を必要とする方の掘り起こしや、新たな参加者とのつながりづくりという課題認識と、提案内容との間に相違が見られました。団体が大切にしている心理的安全性の確保や参加者に寄り添う姿勢については理解できるものの、その特性ゆえに対象者や効果の広がりが見えにくく、市との協働事業として期待される波及効果や発展性が十分に示されていないとの指摘がありました。

今回は選定には至りませんでしたが、当事者に寄り添い、安心して語り合える場を作ってきた団体の活動は意義深いものです。今後は、これまでの活動でのつながりを大切にしながら、解決を目指す社会的課題や協働による効果を改めて整理し、より多くの方々への波及や課題解決につながる事業展開となることを期待します。